

\\ 土作りと情熱で掴んだ栄冠 //

第50回沖縄県さとうきび競作会で新里榮勇氏が「特別優良事例」に！

第50回沖縄県さとうきび競作会において、本町の新里榮勇氏が、最高の名誉である「特別優良事例の部」で表彰されました。
新里榮勇氏は、さとうきび栽培に情熱を注いで50年。まさに地域の農業を支えてきたパイオニアです。その功績は、単に作物を作るだけでなく、多岐にわたります。

1. 努力で打ち勝った「土作り」と「水」

もともと痩せ地が多い地域でしたが、牛の堆肥を積極的に活用して土を改良。さらに、かん水設備がない畑へは自らトラックで水を運んで撒くなど、並々ならぬ努力を続けられました。その結果、常に高い収穫量を維持し、地域の目標となってきました。

2. 地域と製糖工場を支えたリーダーシップ

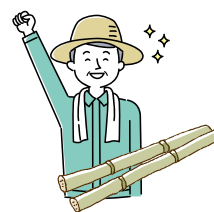
30年以上にわたる区長職や、40年以上の原料員としての活動を通じ、農家と製糖工場の橋渡し役を担ってきました。地域の絆を深め、基幹産業であるさとうきびを守り続けてこられました。

3. 次世代へ繋ぐ「農業士」としての顔

平成2年には沖縄県指導農業士にも認定され平成22年の任期を終えるまで毎年久米島高校園芸課の生徒と交流をもち後継者の育成にも取り組んできました。



受賞を受ける新里榮勇氏



\\ 《多量生産の部》 //

【生産法人の部 沖縄県第1位】(独)農畜産業振興機構理事長賞

久米島町農業生産法人有限会社 あらかきファーム 代表者 新垣 薫
(生産量 1,160,000kg 甘蔗糖度 14.3度 工場シェア 2.20%)

生産法人の部1位の農業生産法人有限会社あらかきファームは、今期さとうきび収穫面積19.25haで1,160t生産し、製糖工場が生産する甘蔗糖の2.2%を占めています。

植付は、全茎式プラントを使用することから、全茎式プラントで利用しやすい健全な苗を生産するため夏植え用の苗は2月、春植え用の苗は6月に植付を行っています。久米島町内でも保水力がある土壌を有する地域のため、メリットを活かし、かん水は、植付から発芽までの期間のみ実施してま

す。新植では中耕・培土を実施し、株出しでは、株出管理を含めて省いています。しかし、欠株箇所への捕植は徹底して実施しています。捕植の方法は、自作した穴あけ器を使用し植穴を開け、そこへ二節苗を投入する方法で行っています、栽培面積が大きいと、作業向上のため株出しの管理作業を省く一方、徹底した捕植作業により茎数を確保し単収低下を防ぎ、多回株出し、多量生産を実現しています。

\\ 「久米島町」の底力の証明！ //

沖縄県さとうきび競作会50回記念功労者表彰《多量生産の部》

～県内6団体のうち、久米島町から5法人が栄えある受賞～

- ・農業生産法人有限会社 あらかきファーム 代表者：新垣 薫
- ・農業生産法人有限会社 ドリームファーム 代表者：宇江城 昌也
- ・農業生産法人有限会社 久豊会 代表者：喜久里 稔
- ・農業生産法人有限会社 赤平ファーム 代表者：玉城 学
- ・農業生産法人有限会社 宇江城ファーム 代表者：城田 勝弘

※過去50回の開催で3回賞を受賞した法人



受賞者による記念撮影の様子

お問い合わせ 産業振興課 ☎985-7134